

令和5年度 第2回南相馬市ゼロカーボン推進計画策定委員会 議事録

■日時：2024年1月10日（水） 13:00～14:00

■会場：南相馬市役所本庁舎4階 議員控室

■出席者

市長：門馬和夫 氏

委員長：福島大学 教授 佐藤理夫 氏

副委員長：国立環境研究所 福島地域協働研究拠点 地域環境創生研究室長 五味馨 氏（オンライン参加）

委員：東北電力ネットワーク株式会社 相双電力センター所長 菅野智宏 氏

相馬ガス株式会社 取締役社長 今津健充 氏

福島県トラック協会 双相支部長 上田由幸 氏

南相馬市復興事業協同組合 理事長 石川俊幸 氏

南相馬ロボット産業協議会 会長 五十嵐伸一 氏

原町金融団 七十七銀行 原町支店長 高前田賢一 氏

鹿島商工会 経営指導員 奈良陽一 氏（オンライン参加）

南相馬市区長連絡協議会 副会長 猪野昇 氏

南相馬市小中学校校長会会長 南相馬市立原町第三中学校 校長 和田節子 氏

あすびと福島 次世代育成チーム長 沖沢真理子 氏（オンライン参加）

公募委員 武藤美佐 氏

オブザーバー：環境省東北地方環境事務所 地域脱炭素創生室長 嶋田章 氏

環境省東北地方環境事務所 地域脱炭素専門官 松田夕希 氏（オンライン参加）

福島県生活環境部環境共生課 主任主査 根本純一 氏（オンライン参加）

事務局：南相馬市 市民生活部 中本部長

南相馬市 市民生活部 環境政策課 松本課長

南相馬市 市民生活部 環境政策課 脱炭素社会推進係 高橋参事、橋本係長、末永主事

■配布資料

- ・会議次第
- ・委員名簿
- ・座席表
- ・資料1 パブリックコメント手続結果について
- ・資料2 パブリックコメント後の修正箇所について
- ・資料3 南相馬市ゼロカーボン推進計画（案）
- ・資料4 南相馬市ゼロカーボン推進計画_概要版（案）

■次第

1. 開会
2. 市長あいさつ
3. 委員長あいさつ
4. 報告事項
 - (1) 南相馬市ゼロカーボン推進計画（素案）パブリックコメント手続結果について
 - (2) パブリックコメント後の修正箇所について
5. 市長との懇談
6. その他
7. 閉会

1. 報告事項	
事務局	報告事項については、委員長に進行をお願いする。
委員長	報告事項として、ゼロカーボン推進計画のパブリックコメント結果とそれに伴う修正事項の説明を事務局をお願いする。
事務局	【資料1～4】を用いて説明を行った。
委員長	ご質問やご意見、感想等があればお願いしたい。
委員A	非常にコンパクトで丁寧に資料も作られていると感じた。しかし、一般市民に向けた場合には、やや難解かもしれない。例えば、学校の教材のような印象を受けてしまうので、計画の使い方については、少し工夫が必要かもしれない。計画自体は非常に素晴らしいが、どう咀嚼して一般市民の方にお伝えするかを考えなければならない。
事務局	一般市民の方が、この計画を初めて見て内容を理解することが難しいことは、事務局側でも承知している。今年3月を目途に、市民向けのリーフレットを作成し、周知を図っていきたいと考えている。また、併せて市の広報誌にも掲載し、同様に周知を図っていく予定である。
委員長	多くの方に関心を持っていただき、各々のレベルに応じて取り組んでいただけるようなきっかけ作りが大事である。ぜひお願いしたい。また、大学としても対応できることはぜひ協力したい。
副委員長	国立環境研究所としても、ご相談いただければぜひ協力させていただく。
委員B	パブリックコメントで頂いた意見の中に「LEDの取り替えに際して事業者さんを紹介して欲しい」というものがあり、また、計画では、南相馬市の率先行動というところでは、2030年までにLEDへの変換を100%とする旨が記載されている。我々は宮城県の銀行でもあるが、LEDの取り扱いが非常に多いメーカーとのつながりもある。このようなところとタイアップして導入のサポートをさせていただければと思う。
委員C	計画の目的がやや見えづらく感じる。施策に対する削減量が紐づかない。また、取組んだことによるメリットや市民が何をすればどのようなメリット得られるかを示せばなおよいと思う。このような記載が計画の最初にあるとよいと思う。
委員長	先ほどリーフレットを作成するとのことであったが、計画の内容を全部盛り込むと、一般市民の理解がやや難しくなるかもしれない。ここは、表現を工夫していただくのが重要である。現状では、脱炭素への取組が人々の生活を豊かにするというイメージはなかなか描きにくいと思う。例えば、省エネルギーで、光熱水の負担が減ることは直結する効果として分かりやすいが、さらに、それ以上に進めることは多少の不便は享受しなくてはならないことが想定される。ここをどう扱うかは、難しいところではあるが、これから作成されるリーフレット等ではぜひ工夫をお願いしたい。
事務局	やはり多くの市民・事業者の方に参加していただくためには、動機付けが必要になってくると思う。そのためには、計画に記載する内容や表現のレベル設定が悩ましいところであった。そこを補う意味でも、委員長からお話があったリーフレット等で補填できればと考えている。
委員C	例えば、少子化により働き手が不足することや、省エネという部分に関しては、単純なロボット化等だけでなく、農林水産業に関わる作業の機械化や自動化をしたいということ、市民と一緒に取組むようなものがゼロカーボン推進計画の中に入ってくると、一般市民からみてもわかりやすくなる。南相馬産業ロボット協議会としても提案ができればいいと思う。
事務局	おっしゃる通り、スタートラインにやっと立ったという認識である。市では、庁内でも連携しながらゼロカーボンを目指していく。また、市民・事業者の皆様のご協力を受けて進めていきたいと考えている。
委員長	後ほど説明があると思うが、ゼロカーボン推進委員会の場でも活発な発言をして、前進し続ける姿勢を常にキープしていくことが重要である。その他、特に意見がないようなので、当委員会としては、異議なしとしてゼロカーボン推進計画を南相馬市へ報告する。皆様のご協力に感謝申し上げます。

2. 市長との懇談	
事務局	時間が限られている中ではあるが、3名程度の方にご意見等があればお願いしたい。
委員D	我々民間企業としても、今後はこの「推進計画」をいかに推進していくかが重要となる。特にインフラ企業の立場としても、責任をもって取組んでいきたいと考えている。被災地である南相馬市が先進的な取組をすることは非常に意義がある。全国的なモデルケースとなれるよう、幅広い周知も重要である。必要に応じて協力させていただきたい。
市長	協力いただけるとのこと感謝申し上げます。結局は、市民一人ひとりの話になる。よって、いかに分かりやすく伝えて、理解してもらうことが重要である。リーフレットを作成する際には、何回かに分けたり、ポイントを絞った形として、まずは理解してもらうことが優先である。その中で、市民・事業者の立場でどのようなことに取組むのかを明示してほしい。
委員A	家庭からの排出量が大きな値であることを初めて知った。行政区では、ごみの減量や分別、リサイクル等にも尽力してきたが、問題が生じた場合は、行政区に依頼するだけでなく、市民も含めた全員の問題として捉えることが重要と改めて実感できた。カーボンニュートラルに関する情報等も各協議会等で状況をお伝えできればと思う。
市長	ごみの減量は、カーボンニュートラルにも寄与する。福島県、南相馬市はごみの排出量が多いという特徴もある。ごみの減量とカーボンニュートラルを合わせて推進していきたい。
委員E	今回は、推進委員として計画策定のプロセスを経て、ごみのリサイクル等に対する意識や行動が変わることができた。示された目標をただ見るのと、その背景を知ることでは、目標に対する考え方が大きく異なる。データ等の現状を把握したうえで問題を捉えると行動に繋がるものだと思う。手遅れにならないように実行できることから取組を進めていきたい。原町第三中学校では、生徒会がゼロカーボン宣言推進強化月間実施案を定めて、節電、残食チェックや、環境保全ポスターコンクール等の取組を生徒のできる範囲で行っている。このような動きによって市民の気持ちが大きく変わるのではないかと感じた。
市長	子どもたちが取組むと家庭にもいい影響が出る。指示だけではその場限りの行動になってしまうので、まずは現状を把握し、対策等を考えてもらうことが重要である。リーフレットにもこのような工夫が必要である。
事務局	事務局として、いただいたご意見を参考にしながら今後の取組を行っていく。オブザーバーより、全体を通してご意見・ご感想あればお願いしたい。
オブザーバー	まずは、計画にある資料編に記載のある計画策定のプロセスについて、委員会や分科会、ヒアリング等をかなり精力的に取組まれたことがよく分かった。市民や事業者を巻き込んだ非常によいプロセスであった。国の政策動向をお話させていただくと、昨年11月の水俣条約にて、2027年末までに蛍光灯の製造・輸出入が禁止されることになった。よって、現在設置されている蛍光灯については、次回又はその次の取替え時にはLEDとなる可能性が非常に高い。また、住宅関連では、来年の4月には、国土交通省が新築住宅に関する省エネ基準・規制を設ける予定である。2030年までには、このような大きな変化の局面を迎えることになる。いずれも本計画内のロードマップに記載されている重要なことであり、このような規制が始まっていく中で、なるべく早めに政策動向を取り入れて対策ができる体制を構築する必要がある。そして、この対応ができる事業者を市内で育成することが望ましい姿であると思う。

事務局	ご意見いただき感謝申し上げます。いただいた意見を参考に、ゼロカーボンに向けて邁進していきたい。
6. その他	
事務局	事務局からの連絡事項がある。
事務局	連絡事項は2点ある。1点目は、計画の公表スケジュールであるが、1月末までの公表を考えている。公表次第、市のホームページ等を用いて周知を図っていく予定である。また、リーフレットを用いて、計画の存在や内容を広く周知することを考えている。体裁については、製本したのち、委員の皆様へ郵送させていただく。2点目は、計画の推進に向けた体制についてである。市民・事業者の方に幅広く意見をいただくため、来年度以降に「南相馬市ゼロカーボン推進委員会」を新たに設置したいと考えている。現在の「南相馬市ゼロカーボン推進計画策定委員会」は、計画策定完了に伴い解散する形とする。委員については、4月以降に改めて就任のお願いをする予定である。「南相馬市ゼロカーボン推進委員会」の開催回数は、年1回程度で考えている。人事異動がある場合は、事務局までご連絡いただきたい。
市長	公表の日程は、今後相談させてもらいたい。単なる発表ではなく、記者発表の形式で公表することも考えている。場合によっては、2月まで及ぶ可能性がある旨をご承知いただきたい。また、その際には、委員の皆様へ質疑応答等に応じていただくこともあるかもしれない。
事務局	いただいた意見を踏まえて、今後の計画公表の予定を調整する。引き続き皆様のご協力をお願いしたい。
7. 閉会	
事務局	本日の会議は以上である。本日は長時間にわたり、貴重なご意見・ご提案をいただき誠に感謝する。今回の会議が南相馬市ゼロカーボン推進計画策定委員会としては最後となる。令和6年度からの南相馬市ゼロカーボン推進委員会へのご協力を引き続きいただければ幸いである。それでは、令和5年度第2回南相馬市ゼロカーボン推進計画策定委員会を閉会する。

以上